

かけはし

福島市立平田小学校 学校だより No.11



文責：校長 佐藤 裕子



廃品回収ありがとうございました。

9月3日(日)8時より、PTAの廃品回収を行いました。小田・山田両区の皆様のご協力を得て、段ボール、新聞紙、雑誌、アルミ缶や一升瓶など、たくさんの資源物を回収することができました。収益につきましては、後日ご報告するとともに、子供たちのために使わせていただきたいと思います。

保護者の皆様におかれましては、先週の信夫地区 PTA 親善球技大会に続き、2週連続でご協力いただき、ありがとうございました。子供たちには、PTA 活動に汗を流すお父さんお母さんの後ろ姿を見て、将来、様々な年齢の方々と協働することで社会に参画し、愛着をもって地域に貢献する人になってほしいものだと思います。



[平田小 HP]
教育活動の様子を掲載しております。ぜひ、ご覧ください。

学校図書館環境整備ありがとうございます。



夏季休業中に電子化作業を終えた本校の蔵書およそ 5,000 冊に、ラベル・バーコードや保護シールを貼る作業が残っていました。学校司書・先崎先生や担当職員・SSS 半田さんがこつこつと作業を進めていたところではありましたが、8月30・31日に、延べ5名の保護者の皆様にご協力いただいたおかげで、ラベルシール貼りを終えることができました。ありがとうございました。

明日以降、次なるミッションの「保護シール貼り」をお手伝いいただく予定です。ひらた PTA サポーターの皆様、どうぞよろしくお願いいたします。



“与えすぎない”菊づくりに学ぶ子育て

5年生の「ふるさと平田に学ぶ」総合的な学習の時間に、菊づくり農家の齋藤さんの菊畑を訪問しました。齋藤さんのお話の中で、子育て・教育と全く同じだなあと、強く心に残っていることがあります。それは、「与えすぎない」ということです。苗に水を与えすぎない方が、根っこは「自分の力で」強く、深く、根をしっかりと張っていくそうです。水を与えすぎると、育たないどころか根腐れをおこしてしまう…なるほどなあ、と思いました。

「自分の持つ能力を最大限に生かして、社会で活躍してほしい。健康で、思いやりのある人間に育ち、たくさんの友だちに囲まれて、豊かな人生を送ってもらいたい。」親であれば、子供の未来が明るく、笑顔に満ちたものであってほしいと願うのは当然です。しかし、子供の幸せを想うあまり、子供に「将来の幸せに直接つながりそうなもの」を与えすぎ、詰め込みすぎていることが多いのも事実。その場合、時間にも心にも余裕がなくなり、親からも子供からも、いつの間にか笑顔が消えてしまっていることも。「教育によさそうなもの」をたくさん与えられ、手取り足取り面倒を見てもらってきた子供は受験直前になって伸び悩んでしまう傾向もあります。幼い頃、親に見守られて「虫とり」や「お絵かき」など好きなことにとことん熱中した経験のある子供や自分の好きなこと・部活動等に熱中した子供は、最後の最後で踏ん張りをきかせてぐんぐん成績を伸ばしていきます。自分の「好き」を見守ってもらえた子は、いざというとき踏ん張れるのです。

子役養成所の方から、親が「あしなさい、こうしなさい」と熱心に指導するご家庭のお子さんは、幼いうちはオーディションに合格しやすい傾向にあるけれど、9歳前後になると、ピタリと結果が出なくなってしまうという話を伺ったことがあります。代わりにめきめきと頭角を現すのは、本人のペースで自由にさせてもらってきた子。最初は結果が出なくても、ある程度大きくなって自分を表現することが求められる年齢になると、がぜん能力を発揮し始めるとか。自分で考えて行動するくせがついているので、監督の「ちょっとこういうことやってみて」という要求にも、とっさに対応することができるそうです。

小学校の時期に必要なのは、ありのままの子どもを「認め」、「見守り」、「待つ」ことではないかと思います。「見守る子育て」で、子供は、自ら学び、伸びる人間になるはず。親が「子どもの将来の幸せに直接つながりそうなもの」を過剰に与え、詰め込むのではなく、子供自身が見つけた「好き」を認めて、見守る、努力を待つ… 自らの好奇心を親に認められ、見守られて育った子供は、「自分が興味を持ったことはいっぱい勉強していいんだ」と考えるようになるはずですし、継続して努力したぶん、粘り強い人間になるように思います。

すると、学校の勉強だけではなく、人生全般において前向きで意欲的になります。自分で人生を選び取り、自らの足で立っているという自信がありますから、たとえ躓くことがあったとしても、その経験を糧にして次にまた頑張っていく力が育ちます。恵まれた時代・少子化の今、「与えすぎない」…大切にしたいものです。

